

育苗時のタマネギ細菌性病害の防除対策

【背景・目的・成果】淡路地域では、近年タマネギ細菌性病害が増加傾向にあります。本病は、育苗中から発病し、枯死・苗質の低下を引き起こし大きな問題になっています。また、収穫後にも腐敗し、歩留まりを低下させることもあります。

そこで、本病の育苗時における防除対策を検討したところ、剪葉(せんよう)作業により被害が拡大することが分かり、剪葉作業前に有効な殺菌剤を散布することにより被害を大幅に軽減できました。

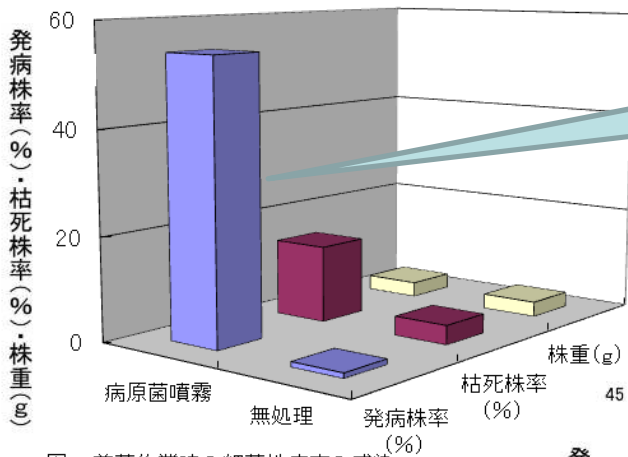


図1 剪葉作業時の細菌性病害の感染

剪葉時にハサミに病原菌を噴霧した区では激しく発病し、剪葉作業が病害の拡大を助長している

剪葉回数を増やしても発病株率に大きな変化がなかったが、剪葉回数が増えるほど定植時の苗重が軽くなる傾向

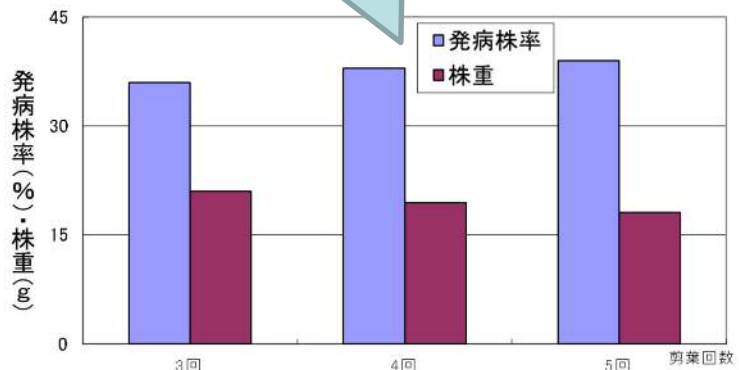


図2 剪葉回数による発病株率と株重の違い

カセット水和剤、マイコシールド水和剤、スターナ水和剤、カスミンボルドー水和剤の効果が高く、剪葉直前に薬剤散布した方が、剪葉7日前の薬剤散布より効果が高くなる傾向

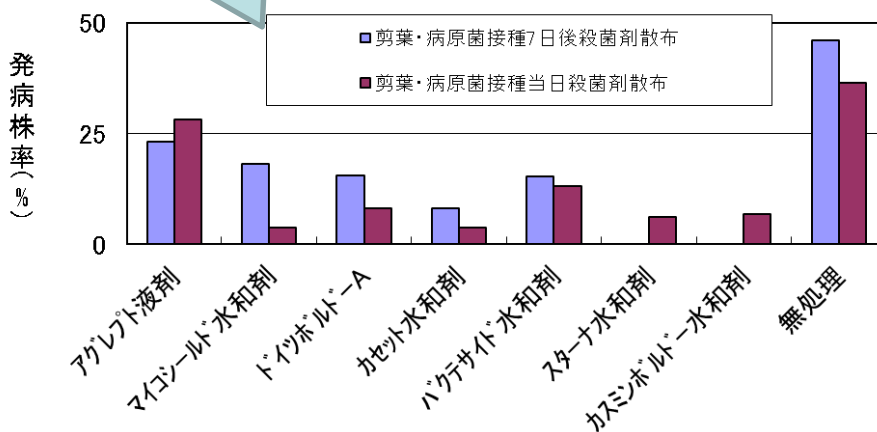


図3 各種殺菌剤の発病株率

注) スターナ水和剤、カスミンボルドー水和剤は当日散布のみ



【技術の活用】剪葉機は、使用後必ず清掃するなど清潔に保つことが必要です。また、殺菌剤による防除は剪葉後ではなく剪葉前に行うことが望ましいです。